

高齢・過疎化の現状実感

東北福祉大生 大崎で地域課題探る

東北福祉大総合福祉学部が、大崎市内の3地区で地域課題の解決策を考える「プロジェクト実践活動」に取り組んでいる。住民との交流や地域を見て回るまち探検で、キャンパスでは得られない少子高齢化や過疎化といった課題のリアルな学びを実感。6、7月に現地を回り、3地区それぞれについて提案をまとめる。



清滝不動尊で住民の説明を聞く学生ら

「444世帯の地区で空き家が50軒。高齢世帯も多く、あと10年したらどうなるか」「3年前に小学校が閉校したが、統合先の新入生も4地区合わせてたった36人だった」「廃校舎を活用するいいアイデアを考えてほしい」

大崎市古川北部の清滝地区。学生8人は6月22日、区長会長の佐藤均さん(75)と民生委員の洋子さん(73)と民生委員の洋子さん(73)夫妻の案内で、旧清滝小や清滝不動尊、高齢者福祉施設を見て回った。

かつて、地域総出の運動会は32ものプログラムで終日行われた。表通りには自転車屋や魚屋、酒屋などが軒を連ねた。東日本大震災では不動尊のわき水が給水に役立った。地域の思い出話を交えた2人の言葉に、学生は真剣な表情でメモを取った。

同大は昨年度から市内で

住民と交流「強いつながり学ぶ」



廃校になった旧清滝小の見学では「活用しないともったいない」と声が上がった

「プロジェクト実践活動」を実施。今年2月には市社会福祉協議会、市と連携協定を結んだ。本年度は学生約20人が3地区に分かれて活動しており、22日は鹿島台姥ケ沢、岩出山上野目でも敬老会と交流したり、ボランティア団体の活動を学んだりした。

清滝地区を訪れた福祉行政学科2年酒井美緒さん(19)は、古川高倉地区で実施した昨年度に続いて2年連続で参加。「大学の座学ではなく生の声を聞く貴重

な機会。都会では希薄化しているつながりの強さ、大切さを学んだ。少しでも力になれたらと思う」と話した。

学生たちは今月中旬に3地区を再び訪ね、高齢者とのレクリエーションなどを行う。下旬には大学で報告会を開く予定だ。村山くみ准教授(44)は「地域の皆さんが温かく迎え入れてくれた。学生らしい柔らかな発想で、地域資源を生かしたアイデアにつなげてほしい」と期待した。